



茨城県立水戸第二高等学校

校長通信

第3号

平成28年4月28日(木)発行

【「道徳」講演会】4月18日(月)

弘道館学芸員の小坪のり子さん(卒業生)を講師として、「水戸二高の創立と豊田英雄」と題した講演会が、1年生を対象に行なわれました。

豊田先生は、明治33年に県内初の高等女学校として創立された水戸二高に、翌年の明治34年に57歳で赴任し、大正11年まで21年間にわたり勤務され、本校の礎を築いた先生のおひとりです。水戸二高100年史には、創立当時仮校舎としていた弘道館の至善堂という部屋で礼儀作法の授業をしている豊田先生の写真が載っていますが、今も、毎日、校門の脇で皆さんを温かく見守っています。(校門脇の銅像は豊田英雄先生です。)



【講演の様子】



【奥で指導されているのが豊田先生】



【豊田先生の像】

豊田先生は、水戸藩士の家に生まれ、18歳で豊田小太郎氏(水戸藩の学者で尊皇開国論者)に嫁ぎますが、22歳の時に夫が京都で暗殺されます。夫が水戸を発つ前に言い残した最後の言葉「心を鬼にしておれよ」を貫き、勉学に励み、日本人初の幼稚園保母となりました。また、「世界に目を向けつつ、新しい時代を作るべきだ。」との生前の夫の考えもあり、43歳から3年間ほど欧州を視察しています。

水戸二高の校訓「叡智」「仁愛」「創造」には豊田先生の「人を慈しみ、世界へ羽ばたく人材に」との思いが表されているのかも知れません。

〈水戸二高の校訓〉

叡智・・・深遠な道理をさとりうるすぐれた才知
仁愛・・・めぐみいつくしむこと。思いやり。
創造・・・新たに造ること。新しいものを創りはじめること。



【校長室にある校訓】

皆さんは、豊田先生の生き方から何を学びますか？

【熊本地震で被災された方への支援—JRC部】

4月19日(火)、20(水)の2日間、JRCの生徒が登校時間に昇降口で、生徒の皆さんへ熊本地震で被災された方々への支援を呼びかけたところ、45,300円の義援金が集まりました。ゆうちょ銀行を通して、日本赤十字社に送金しましたが、少しでも被災された方の力になってほしいと思います。熊本県では、今も多くの方が不自由な生活をされていますが、私たちも5年前、東日本大震災で、今までにない経験をしました。これからも、いつ、どこで、どのような災害が起きるかわかりません。日頃から災害に備えておきたいものです。

【ブリティッシュヒルズ研修—1年】4月22日(金)

今年、1年生は1日HRとして全員で福島県にあるブリティッシュヒルズへ行きました。英国情緒豊かな環境・建物の中で、ネイティブの先生から討論の仕方について学んだり、ゲーム的活動を通してクラスの親睦を深めたりしました。この体験が、これからの英語学習に活かされることを期待します。



【英国風の建物】



【授業の様子】



【世界に伝える私たちのニッポン！】4月26日(火)

これからのグローバルな社会に生きるために大切なことの一つとして、自分の国の文化や歴史について理解し、伝えることができる力があげられます。

そこで、本校では、2年生の白百合の時間を利用して、興味ある日本の文化や水戸二高の歴史などについてグループで調べ、発表することを通して、幅広い知識を得る学習を行うこととしています。その第1歩として、今年の3月まで水戸市立博物館長をされていた玉川 里子さん(本校卒業生)を講師として「日本を知るといふこと ～水戸の歴史訪訪」の講演を行いました。

水戸市(弘道館等)が、足利市・日田市・備前市とともに「近世日本の教育遺産群」として、昨年度日本遺産に認定されたことの意義や当時の水戸城やその周辺の様子、水戸藩の一大事業「大日本史」の編纂が行われた今の水戸二高の場所にあった水戸彰考館についてや、「大日本史」の完成まで実に250年近くかかったことなどをわかりやすく説明してくださいました。

また「今は情報化社会、インターネットで何でも簡単に調べられるが、それが正しいとは限らない。常に「本当かな？」と疑問を持ち、文献などにあたるのが大事」と、学習への心構えも示されました。

この学習を通して、日本の文化や郷土の歴史について、何かひとつ自分のことばで話せるようになることを期待します。



【講演の様子】